



▶ MAKING THE WORLD  
A BETTER PLACE

# 決算説明資料

Financial results briefing materials

2023年3月期 第4四半期

インヴァスト株式会社

# 連結業績サマリー | 2022.4 – 2023.3

## 国内金融事業


- ・米国株式市場の低迷により前期に大きく寄与したCFD取引が減少したため減収となった。
- ・将来的な収益基盤の拡大を目指し、機能追加などのシステム強化や新サービス「マイメイト」の認知拡大のため積極的な広告施策を実施した結果、販管費が増加し減益となった。

## 海外金融事業

- ・コロナ後の規制緩和に伴い海外への営業活動が可能になったため、新規顧客開拓を更に進め、法人向けビジネスの取引量が増加し増収となった。
- ・地理的拠点の拡大や事業の拡大により人件費やシステム関連費を中心に販管費が増加したが、主力のインフラストラクチャーを変更したことで収益率の改善を行った結果、営業収益、営業利益ともに大幅に伸び、過去最高益を更新した。

## ファンドの運用

- ・前期はファンド運用益が2億84百万円と経常利益に大きく寄与したが、今期はファンド運用益が10百万円となり、経常利益が大幅に減少する要因となった。



業績サマリー  
[2022.4-2023.3]

## 連結業績 | 2023年3月期 | 2022.4 – 2023.3

単位：百万円	2022年3月期 (2021.4-2022.3)	2023年3月期 (2022.4-2023.3)	対前年同期比 増減率
営業収益	5,158	6,005	+ 16.4%
純営業収益	4,981	5,582	+ 12.1%
営業利益	783	384	△ 50.9%
経常利益	1,047	381	△ 63.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	808	199	△ 75.4%

## セグメント別業績 | 2023年3月期 | 2022.4 – 2023.3

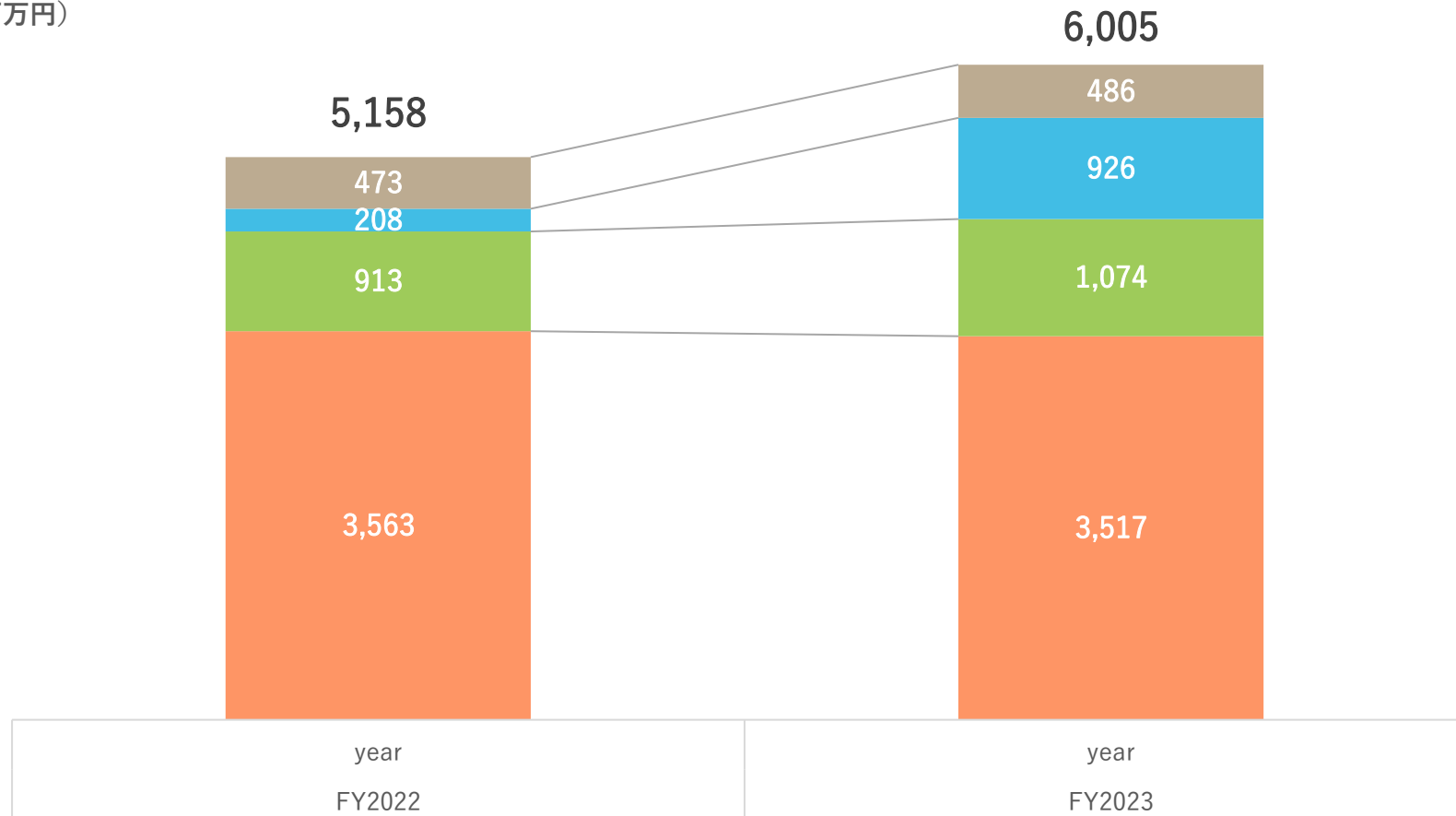
単位：百万円	2022年3月期 (2021.4-2022.3)	2023年3月期 (2022.4-2023.3)	対前年同期比 増減率	
国内金融事業	純営業収益	3,118	2,966	△4.9%
	営業利益	454	34	△92.3%
海外金融事業	純営業収益	1,928	2,734	+41.8%
	営業利益	351	428	+22.1%

※海外金融事業は決算日が12月末日のため、2023年3月期は2022年1月1日～2022年12月31日の実績値となります。



# 営業収益の内訳 | 2023年3月期 | 2022.4 – 2023.3

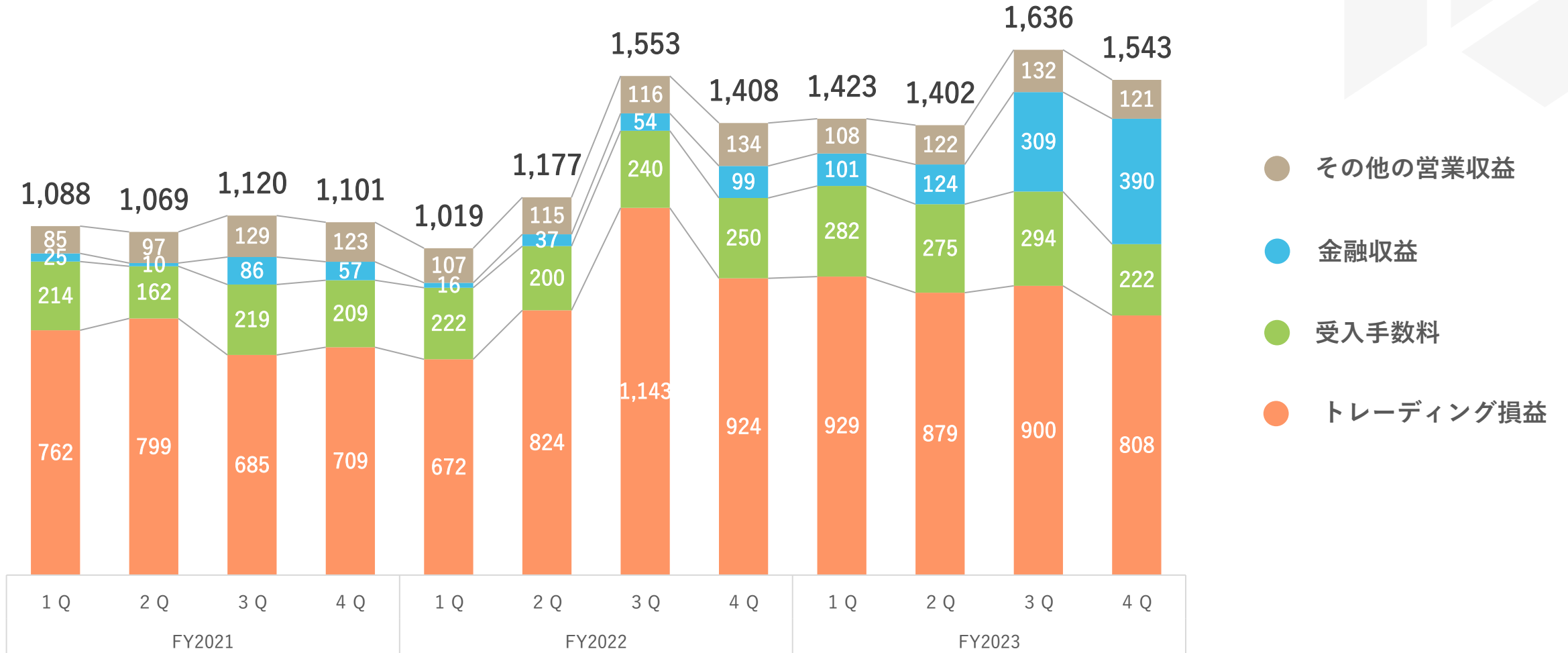
(百万円)



- その他の営業収益  
前年同期比 +2.6%
- 金融収益  
前年同期比 +345.2%
- 受入手数料  
前年同期比 +17.7%
- トレーディング損益  
前年同期比 △1.3%

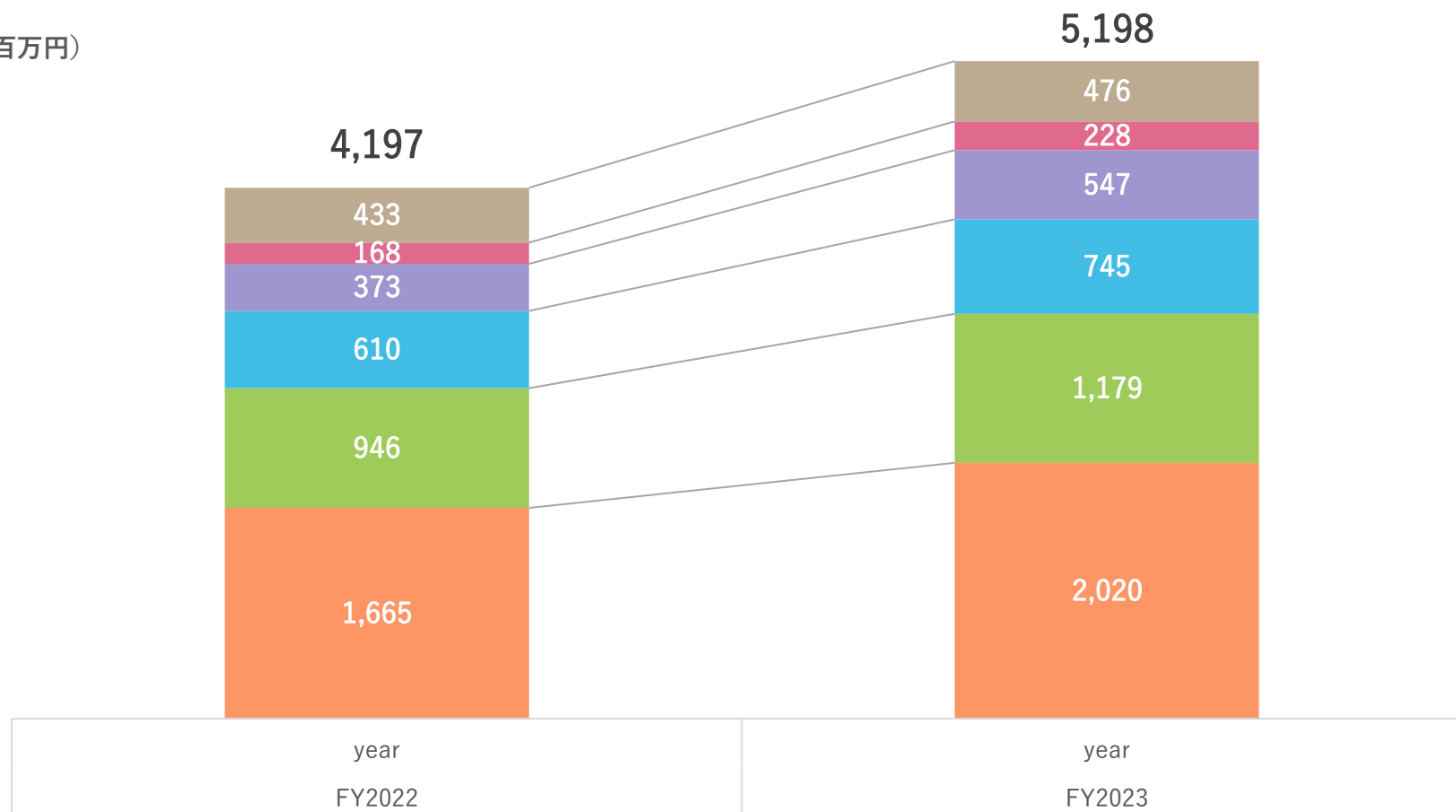
# 営業収益の推移 | 四半期別

(百万円)



# 販売費・一般管理費の内訳 | 2023年3月期 | 2022.4 – 2023.3

(百万円)

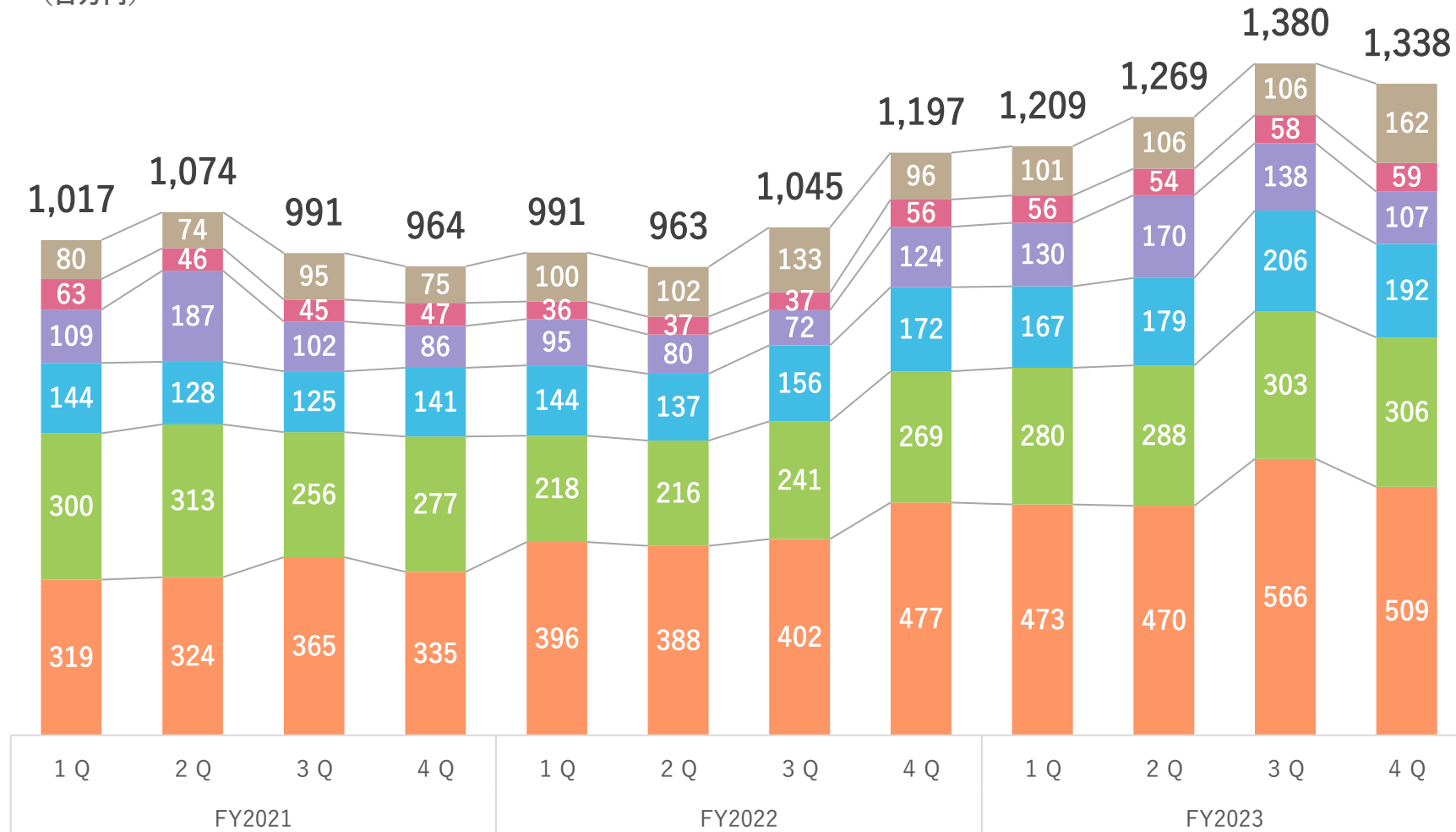


- **その他**  
前年同期比 +9.9%
- **減価償却費**  
前年同期比 +35.4%
- **広告宣伝費**  
前年同期比 +46.8%
- **取引関係費**  
前年同期比 +22.1%
- **器具備品費**  
前年同期比 +24.6%
- **人件費**  
前年同期比 +21.3%



# 販売費・一般管理費の推移 | 四半期別

(百万円)

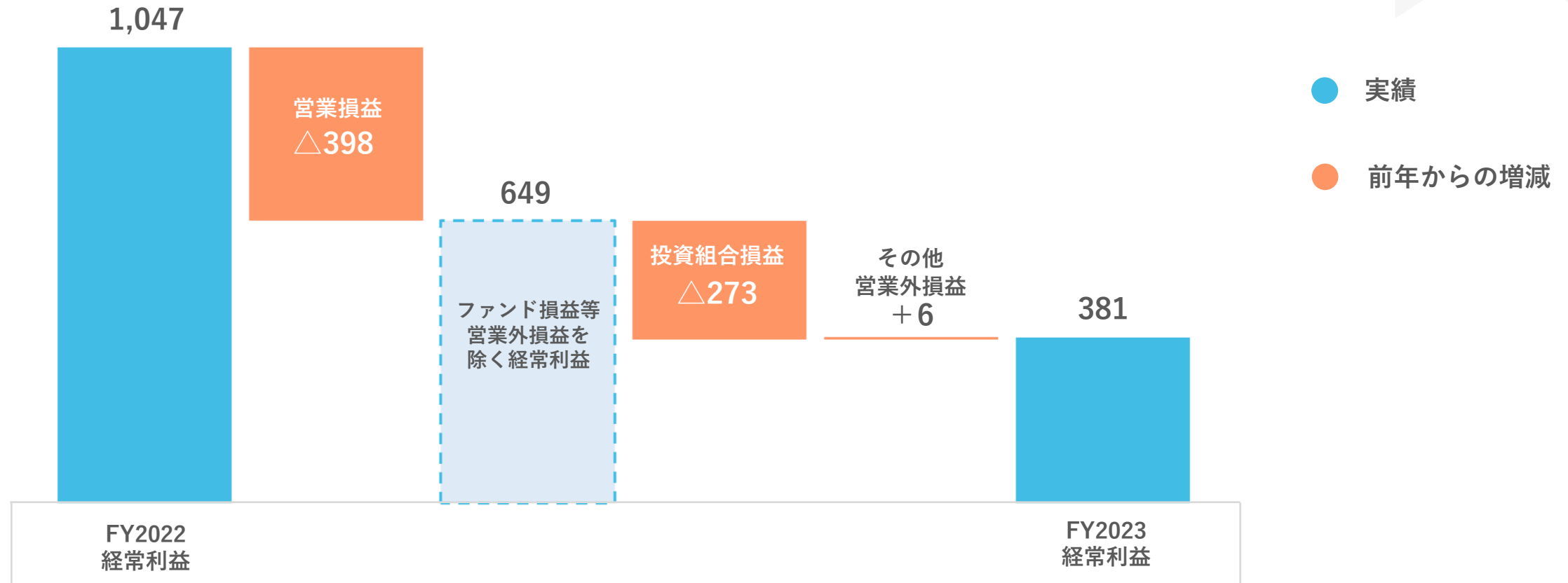


- その他
- 減価償却費
- 広告宣伝費
- 取引関係費
- 器具備品費
- 人件費

## 経常利益の増減要因 | 2023年3月期 | 2022.4 – 2023.3

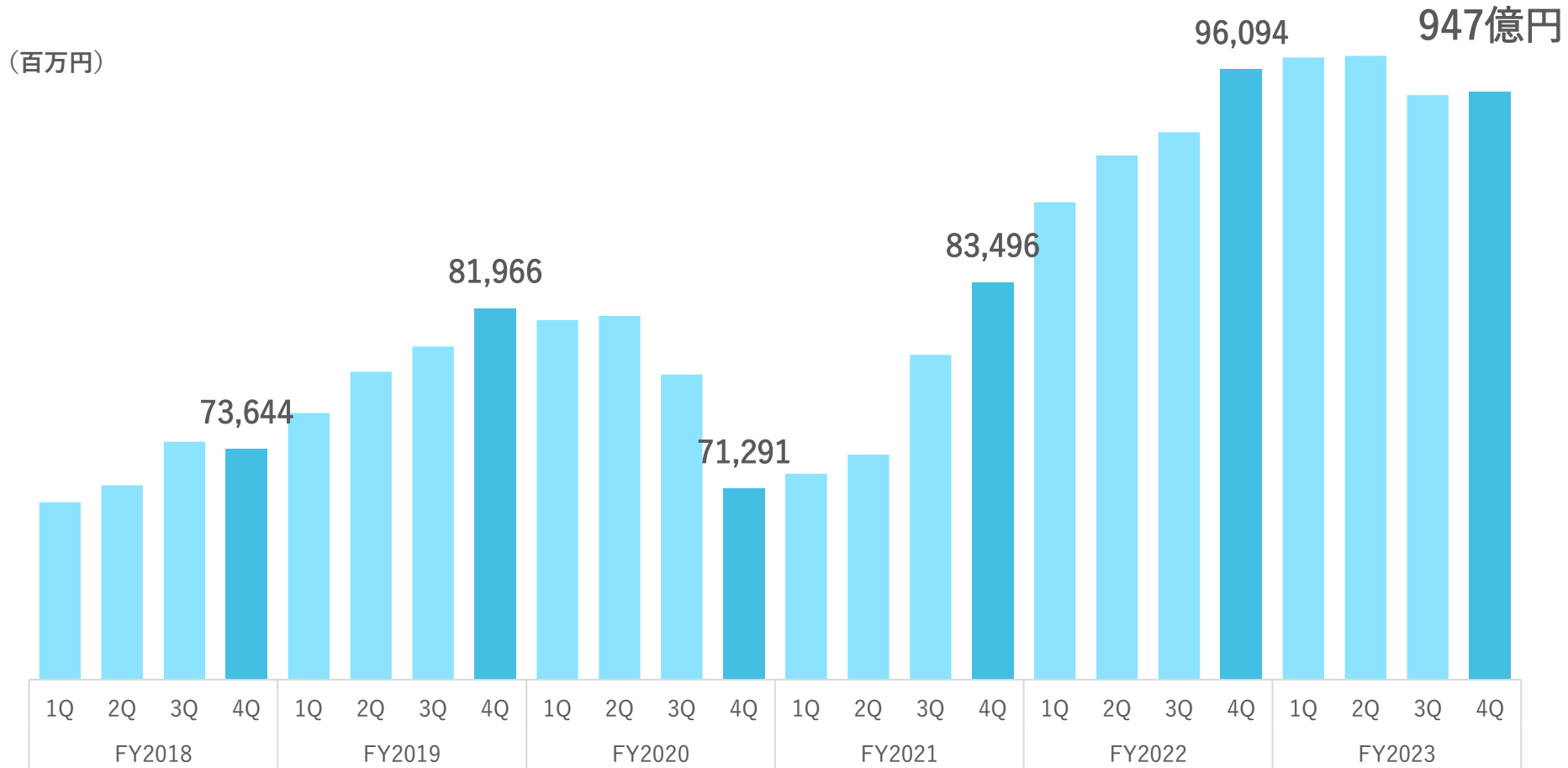
経常利益は前年同期比6億66百万円の減少となった。販管費増による営業利益の減少のほか、前年同期に計上したファンド運用益2億84百万円が、当期は10百万円となったことが大きく影響した。

(百万円)




## 預り証拠金残高の推移 | 連結

預り証拠金残高は947億51百万円、前年同期比 △13億43百万円となった。



※連結子会社IFSの決算日が12月31日のためIFSの数値は3ヶ月前の値で試算

取引量は相場のボラティリティにより変動するため、「収益の源泉」であり「お客様からの信頼の証」となる**預り証拠金残高**は重要な指標となります。



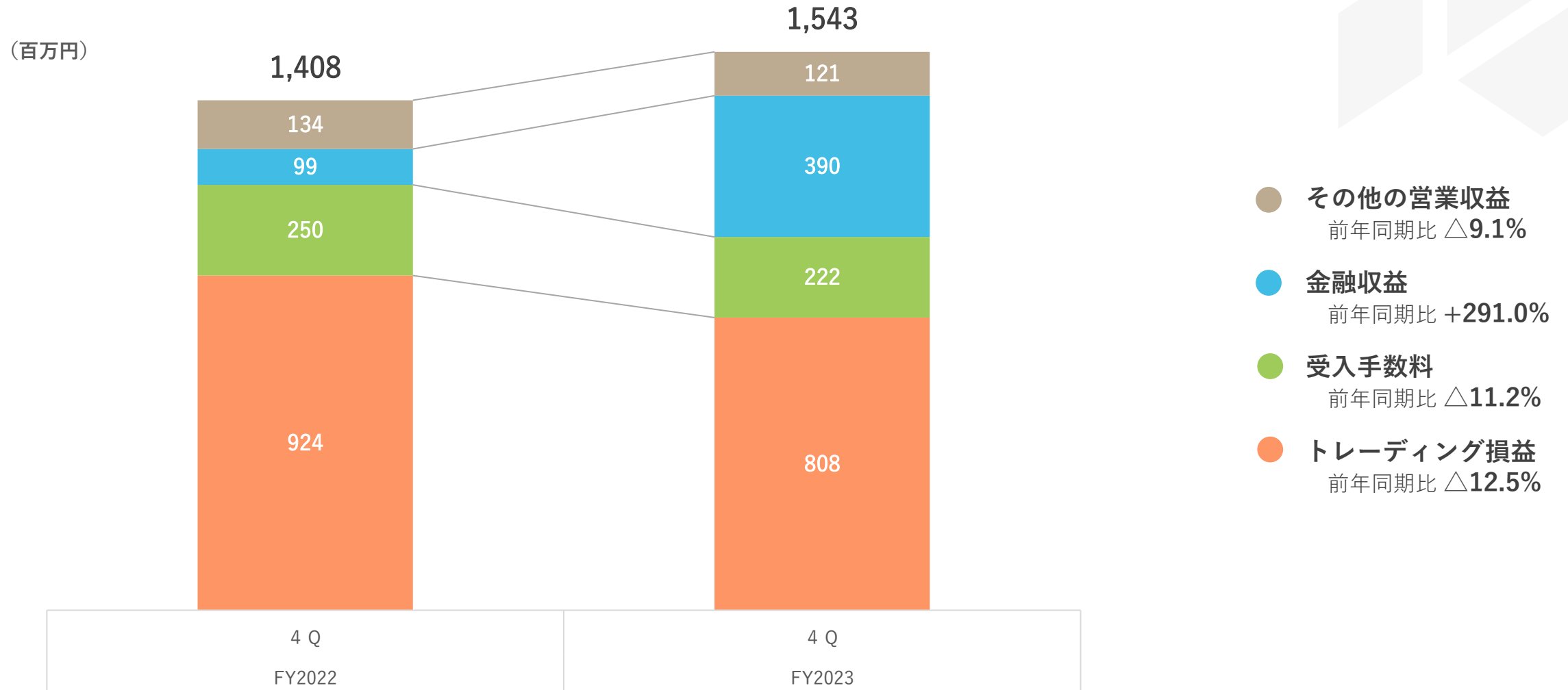
第4四半期  
業績サマリー  
[2023.1-3]

## 前年同期比 | 第4四半期業績 | 2023.1-2023.3

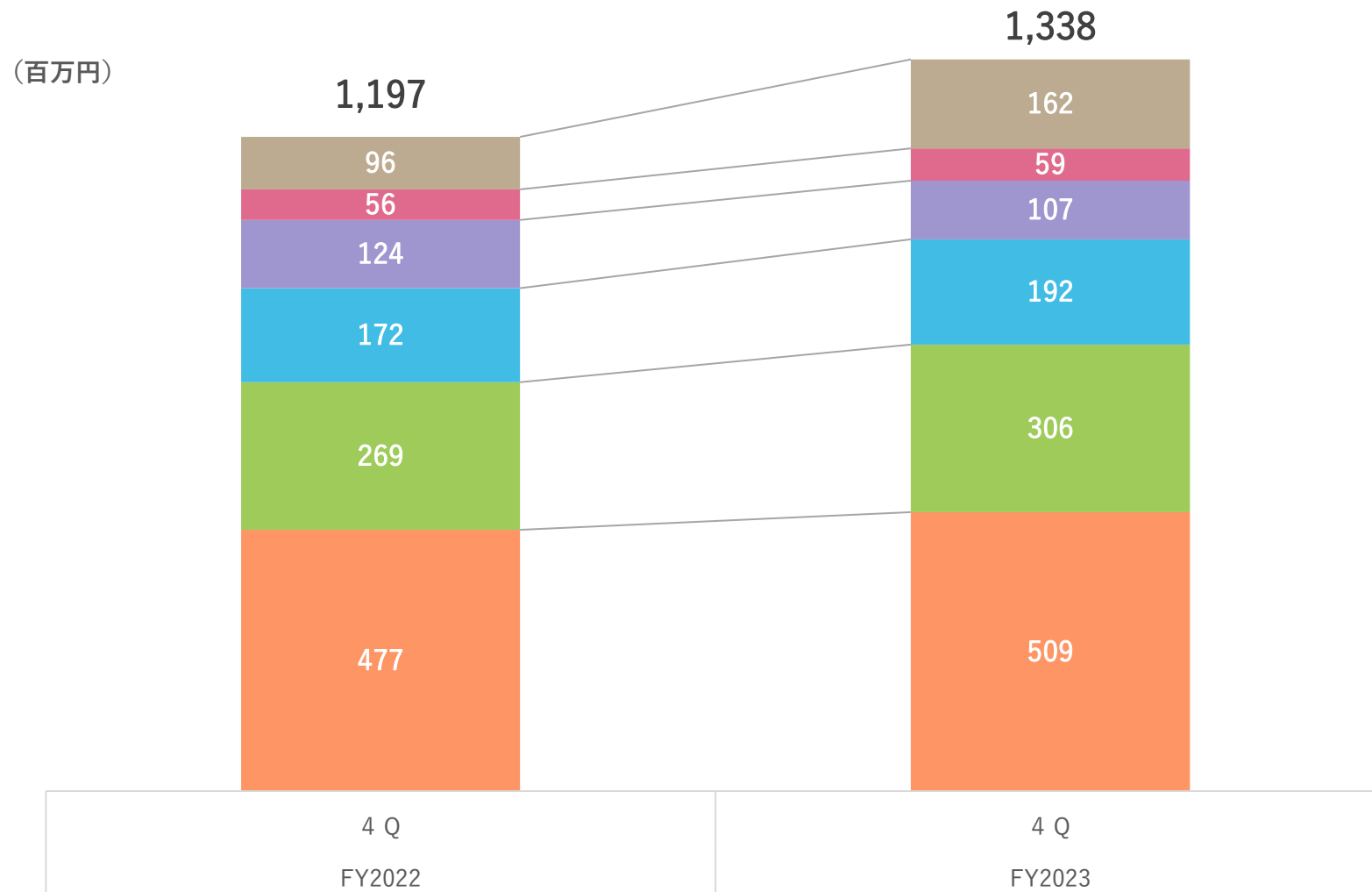
第4四半期ではファンド運用益84百万円を計上したため、経常利益が増加

単位：百万円	2022年3月期 4Q (2022.1-3)	2023年3月期 4Q (2023.1-3)	対前年同期比 増減率
営業収益	1,408	1,543	+9.5%
純営業収益	1,313	1,398	+6.5%
営業利益	116	60	△48.0%
経常利益	101	152	+49.8%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	197	92	△53.0%

# 前年同期比 | 第4四半期 営業収益内訳 | 2023.1-2023.3



# 前年同期比 | 第4四半期 販売費・一般管理費 | 2023.1-2023.3



- その他  
前年同期比 +68.5%
- 減価償却費  
前年同期比 +4.1%
- 広告宣伝費  
前年同期比 △13.2%
- 取引関係費  
前年同期比 +11.8%
- 器具備品費  
前年同期比 +13.8%
- 人件費  
前年同期比 +6.7%

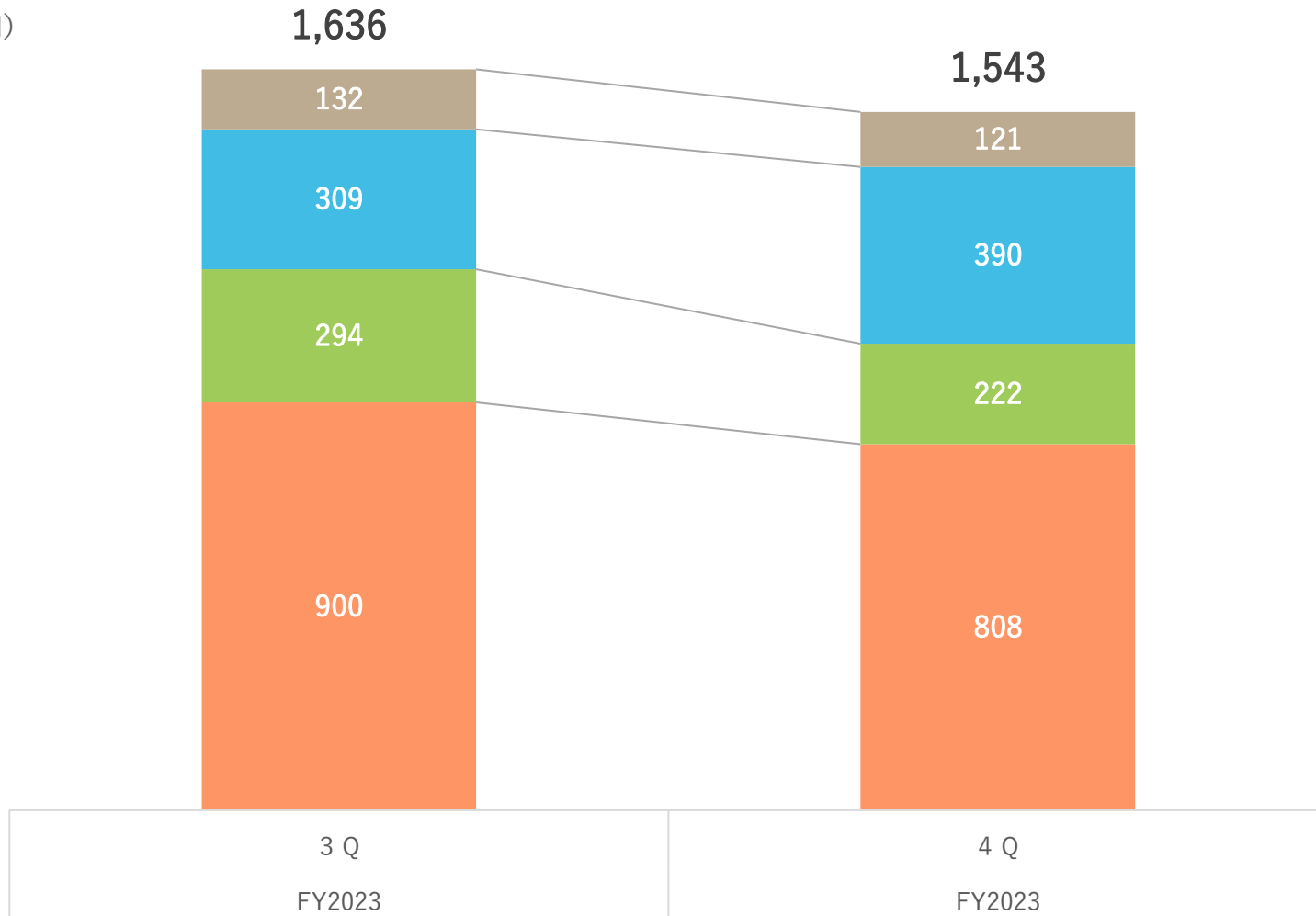


## 直前四半期比 | 第4四半期業績 | 2023.1-2023.3

単位：百万円	2023年3月期 3Q(2022.10-12)	2023年3月期 4Q(2023.1-3)	対直前四半期比 増減率
営業収益	1,636	1,543	△5.7%
純営業収益	1,511	1,398	△7.4%
営業利益	130	60	△53.7%
経常利益	167	152	△8.8%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	92	92	+0.1%

# 直前四半期比 | 第4四半期 営業収益 | 2023.1-2023.3

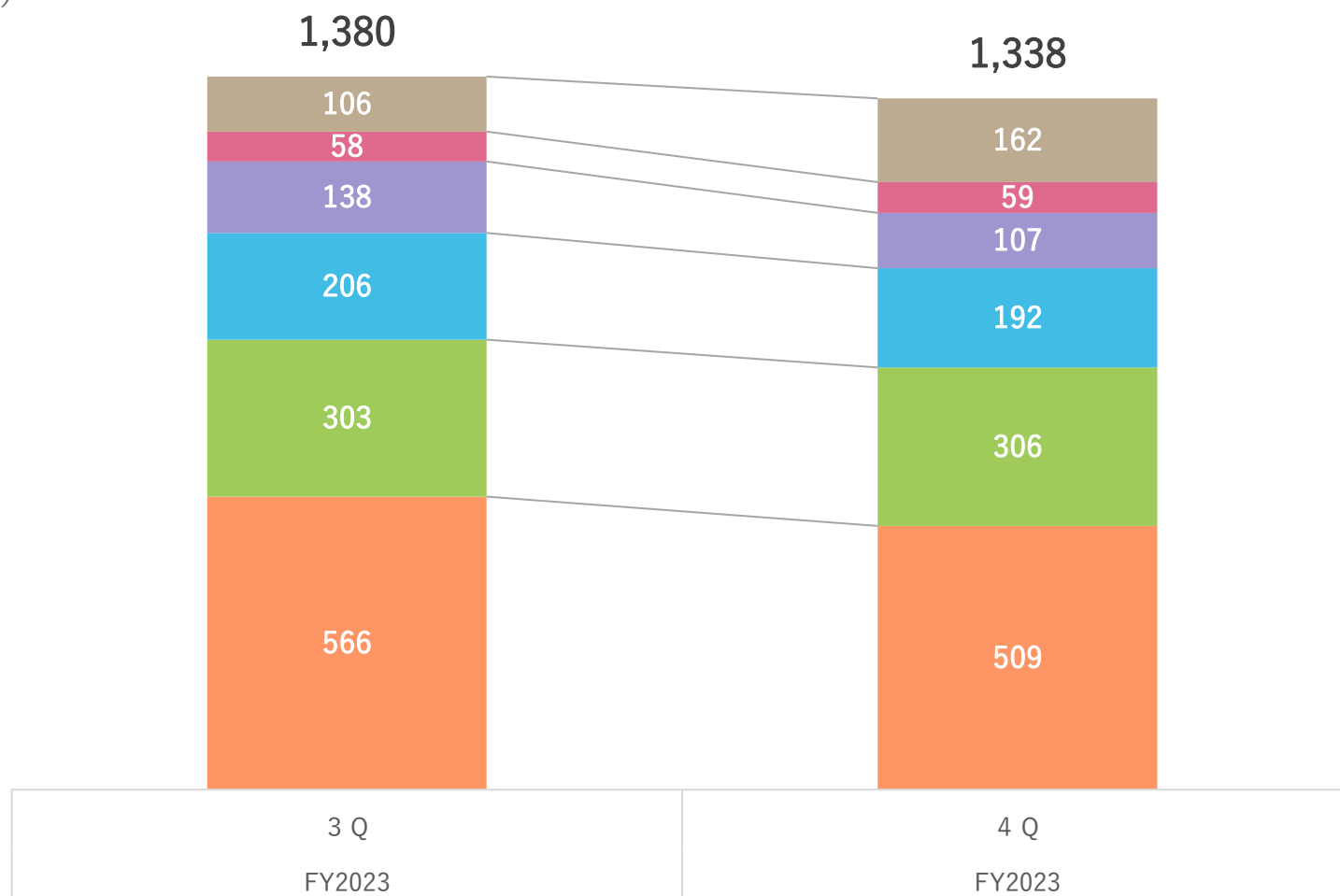
(百万円)



- その他の営業収益  
直前四半期比  $\Delta$ 8.3%
- 金融収益  
直前四半期比 +26.2%
- 受入手数料  
直前四半期比  $\Delta$ 24.4%
- トレーディング損益  
直前四半期比  $\Delta$ 10.2%

# 直前四半期比 | 第4四半期 販売費・一般管理費 | 2023.1-2023.3

(百万円)



- その他  
前四半期比 +51.8%
- 減価償却費  
前四半期比 +1.9%
- 広告宣伝費  
前四半期比 △22.2%
- 取引関係費  
前四半期比 △6.7%
- 器具備品費  
前四半期比 +1.1%
- 人件費  
前四半期比 △10.1%

# 国内金融事業 ハイライト

2023年3月期  
セグメント情報

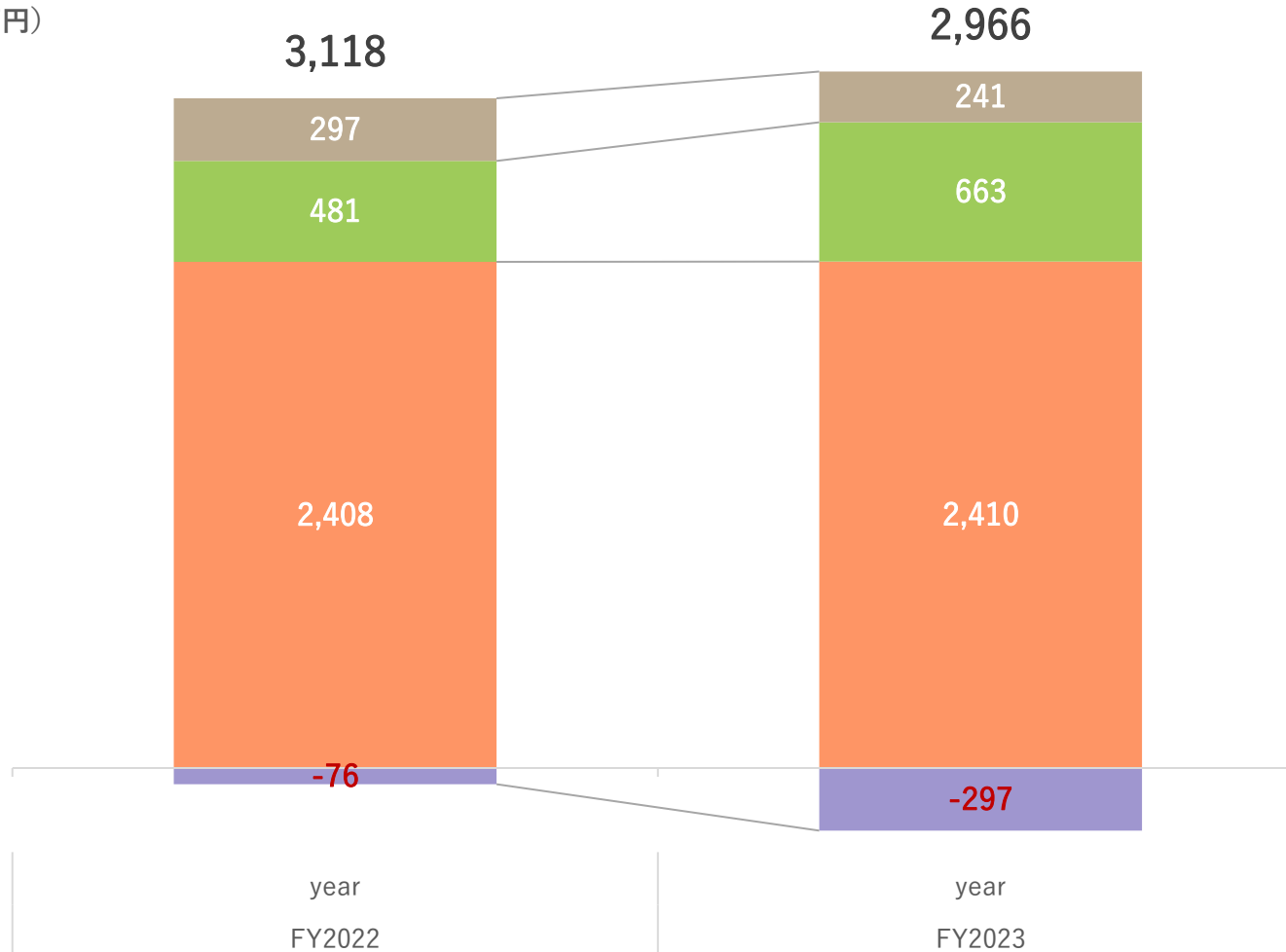


## セグメント業績サマリー | 2023年3月期 | 2022.4-2023.3

単位：百万円	2022年3月期 (2021.4-2022.3)	2023年3月期 (2022.4-2023.3)	対前年同期比 増減率
純営業収益	3,118	2,966	△4.9%
販売費・一般管理費	2,664	2,931	+10.0%
営業利益	454	34	△92.3%

# 純営業収益の内訳 | 2023年3月期 | 2022.4-2023.3

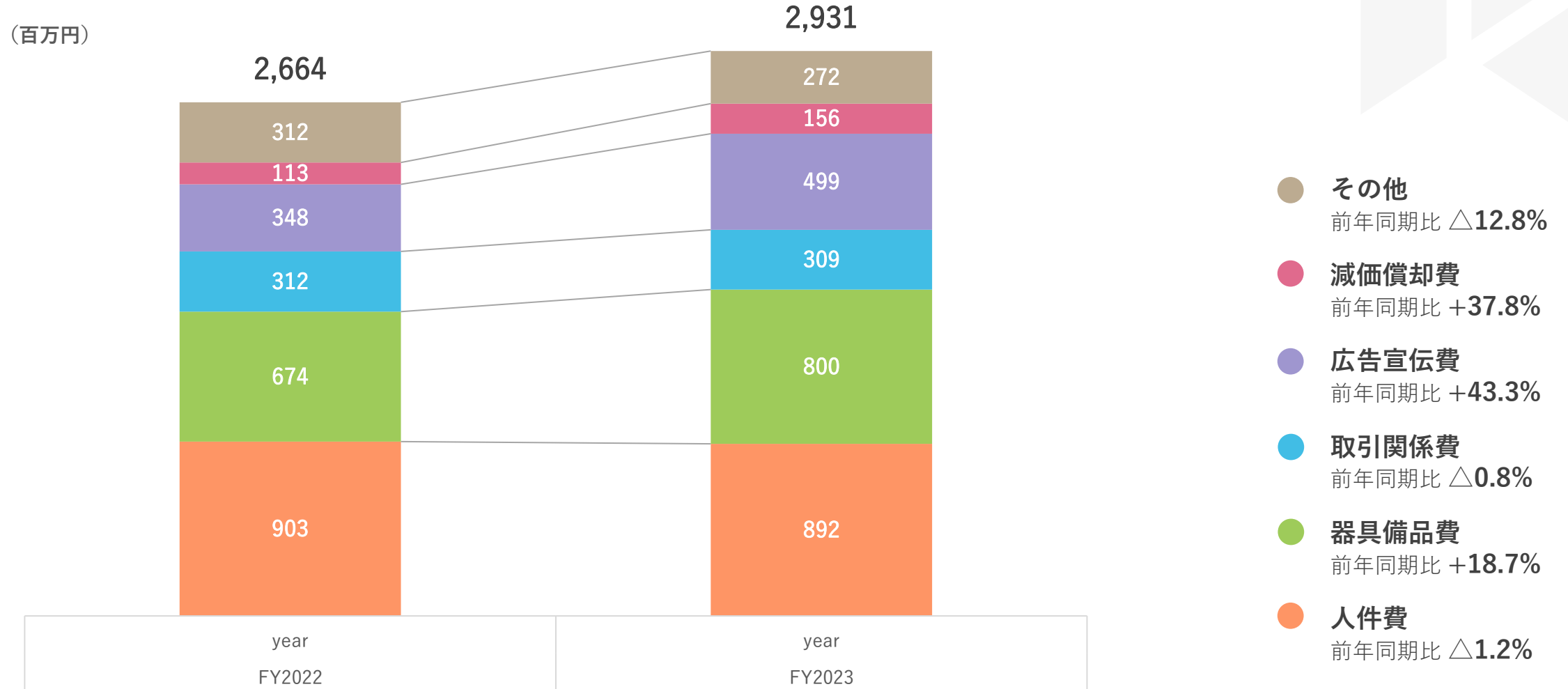
(百万円)



- **その他営業収益**  
前年同期比  $\Delta$ 18.7%
- **受入手数料**  
前年同期比 +37.8%
- **トレーディング損益等**  
前年同期比 +0.1%
- **その他金融費用**

※セグメント間調整額を除く

販売費・一般管理費の内訳 | 2023年3月期 | 2022.4-2023.3





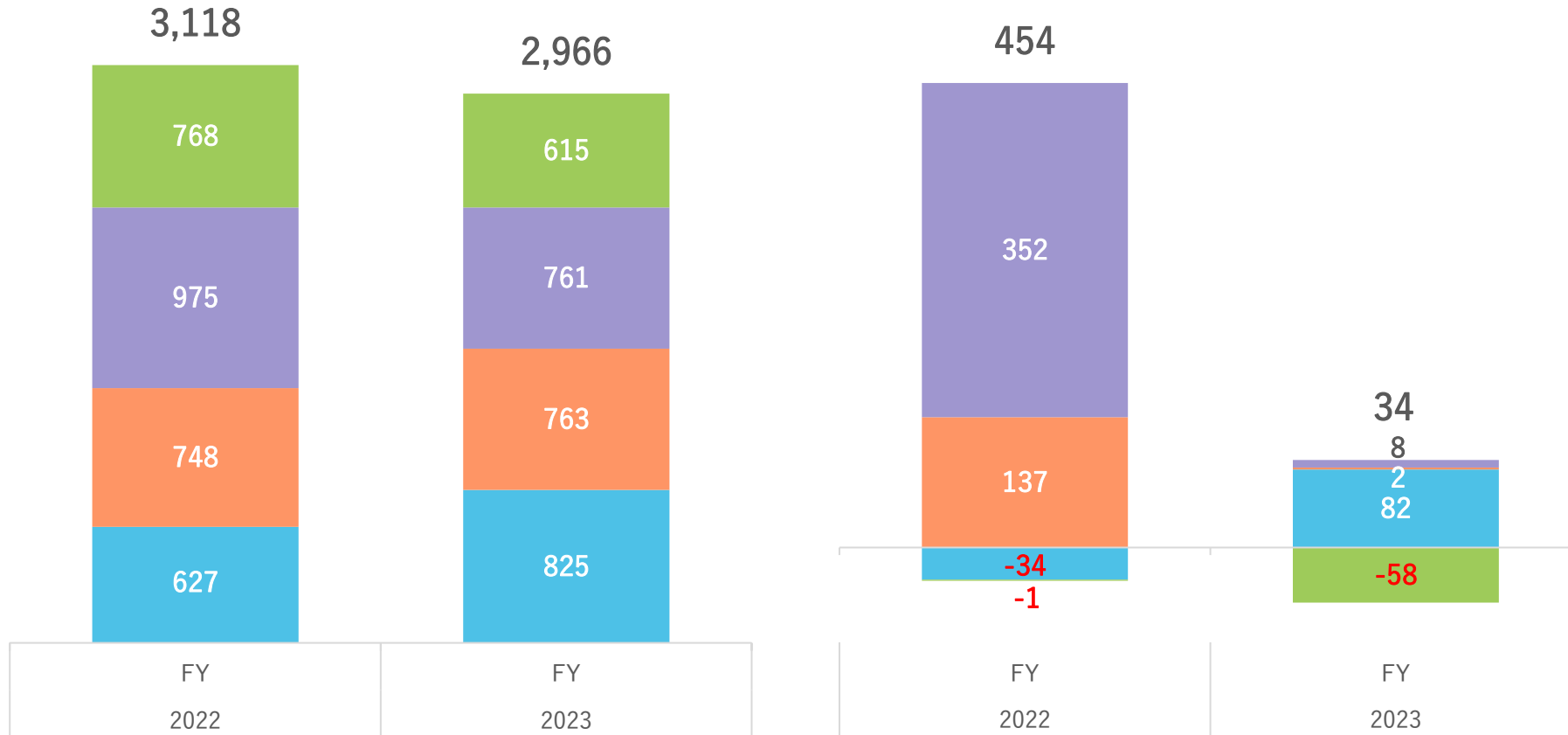
# 純営業収益・営業利益 | 2023年3月期 | 2022.4-2023.3

純営業収益は前年同期比△4.9%、営業利益は前年同期比△92.3%となった。

(百万円)

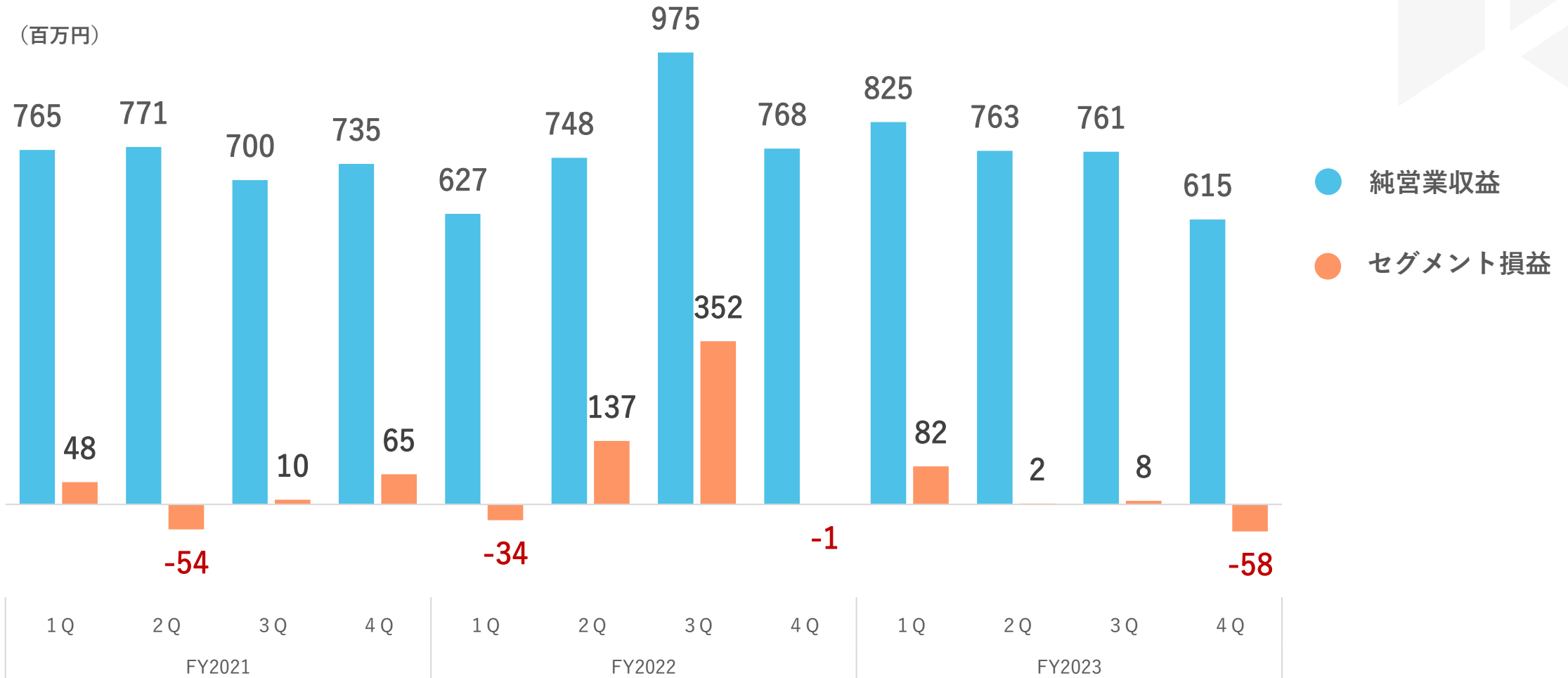
セグメント収益

セグメント利益



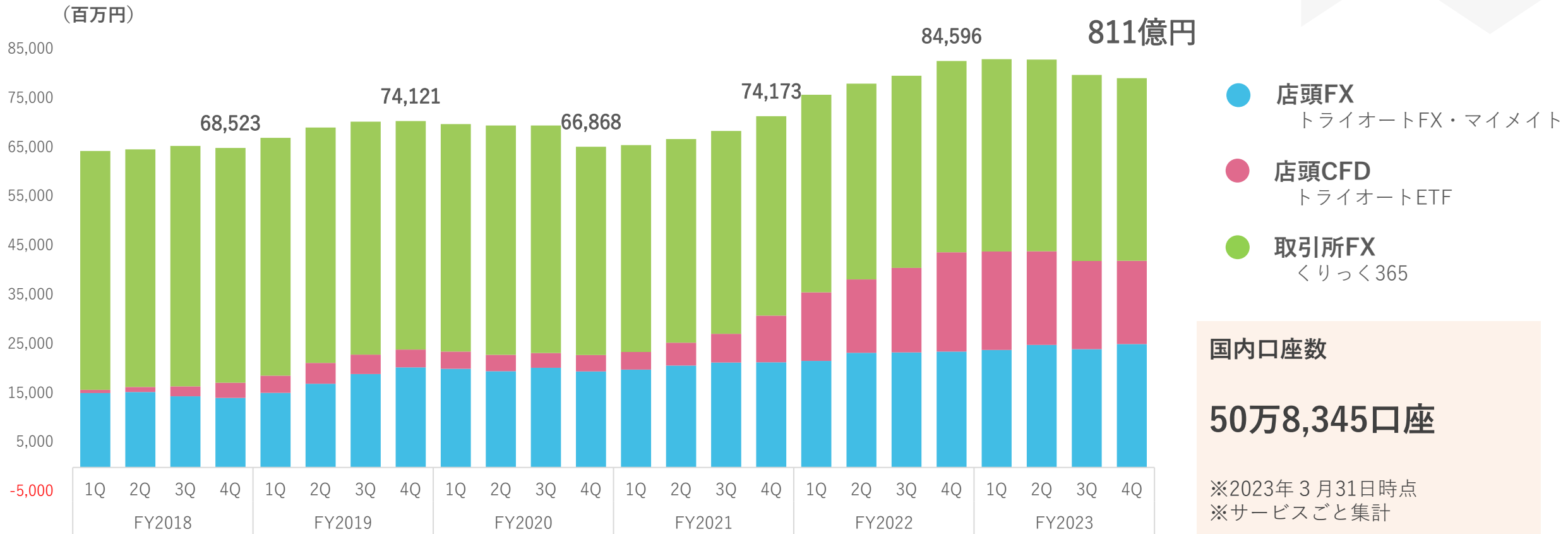
- 第4四半期
- 第3四半期
- 第2四半期
- 第1四半期

# 純営業収益・営業利益の推移



## 預り証拠金残高推移と口座数

主力の店頭FXの預り証拠金残高は堅調に増加したが、店頭CFDおよび取引所FXが減少したため預り証拠金残高は前年同期比△34億円の811億11百万円となった。



# 海外金融事業 ハイライト

2023年3月期  
セグメント情報



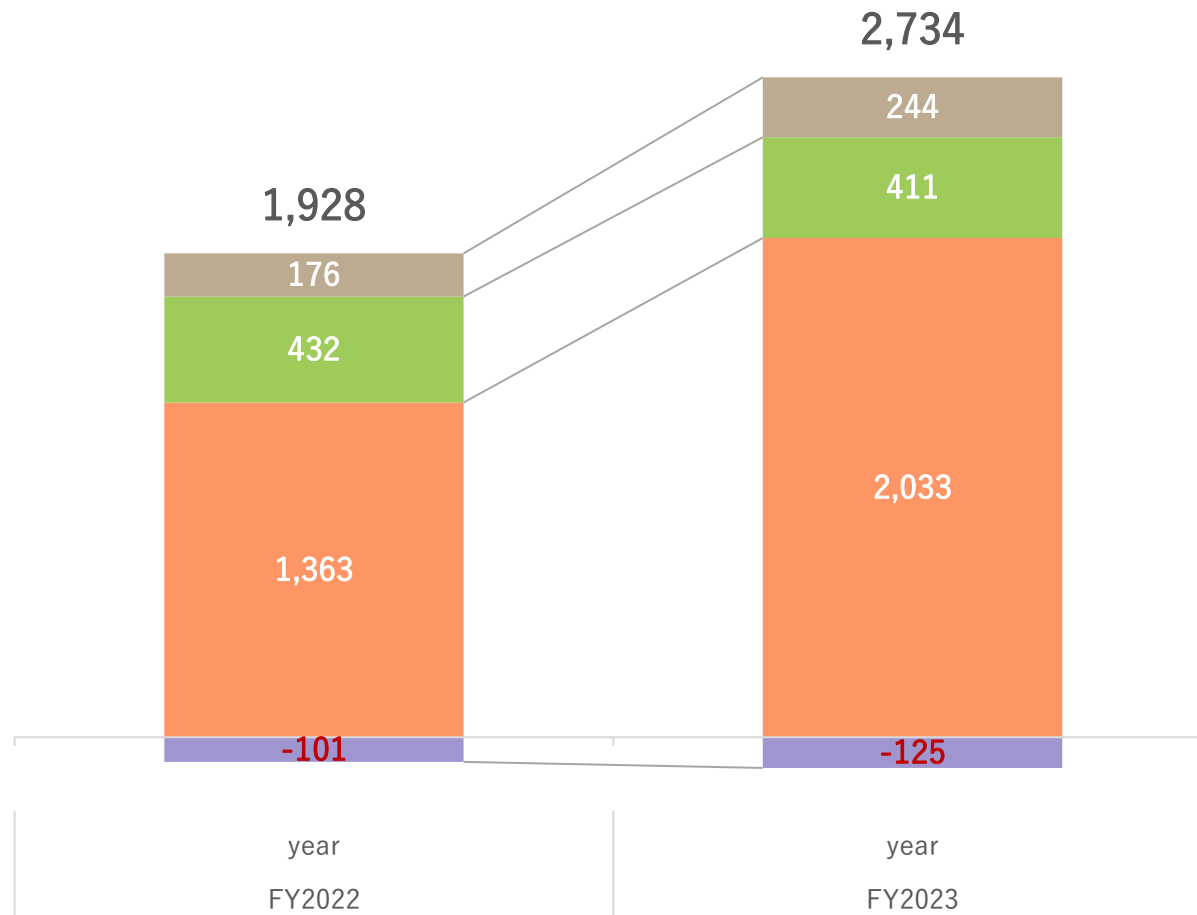
## セグメント業績サマリー | 2023年3月期 | 2022.1-2022.12

単位：百万円	2022年3月期 (2021.1-12)	2023年3月期 (2022.1-12)	対前年同期比 増減率
純営業収益	1,928	2,734	+41.8%
販売費・一般管理費	1,577	2,306	+46.2%
営業利益	351	428	+22.1%

※海外金融事業は決算日が12月末日のため、2023年3月期は2022年1月1日～2022年12月31日の実績値となります。

# 純営業収益の内訳 | 2023年3月期 | 2022.1-2022.12

(百万円)

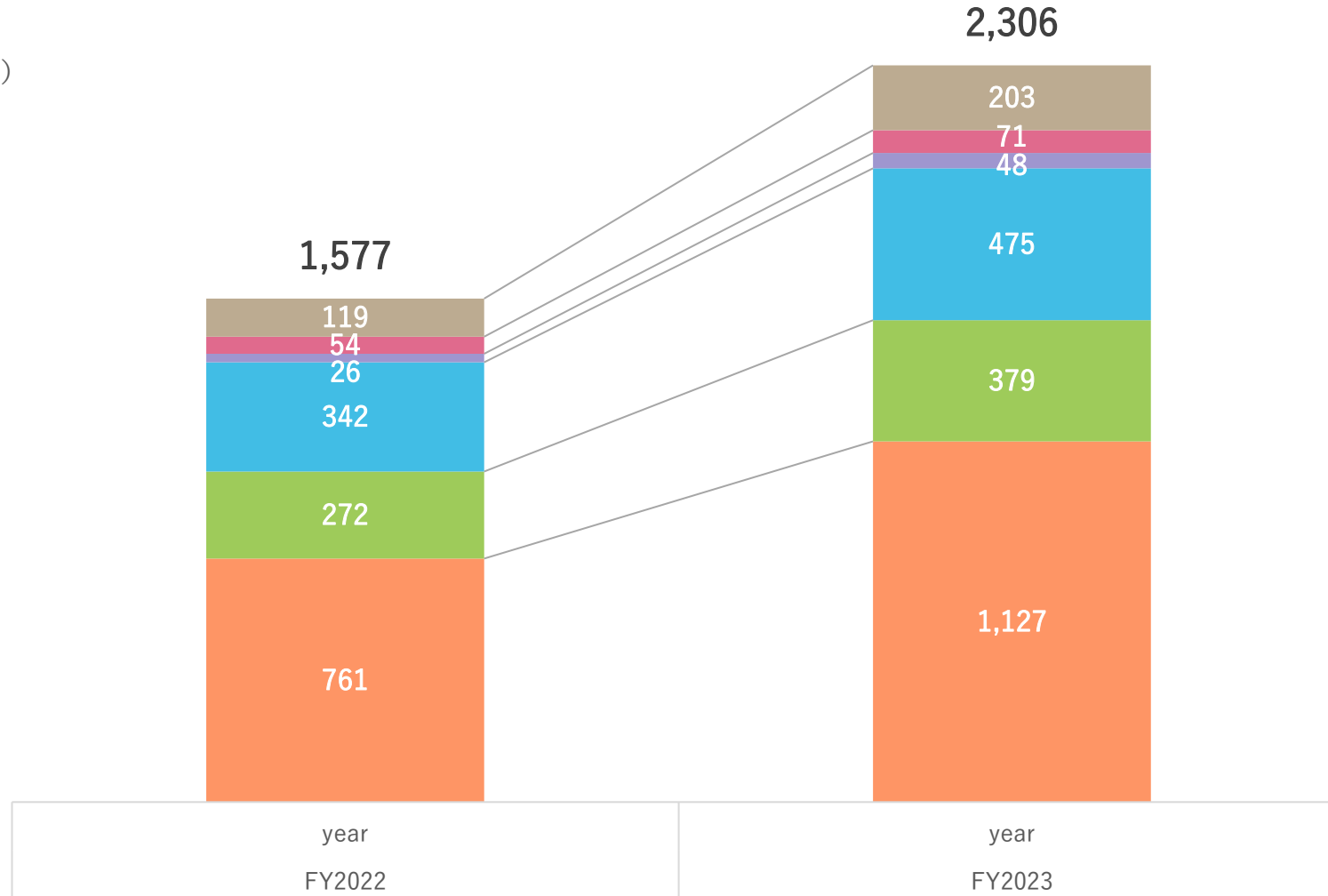


- **その他営業収益**  
前年同期比 +38.4%
- **受入手数料**  
前年同期比 △4.7%
- **トレーディング損益等**  
前年同期比 +49.1%
- **その他金融費用**

※セグメント間調整額を除く

# 販売費・一般管理費の内訳 | 2023年3月期 | 2022.1-2022.12

(百万円)

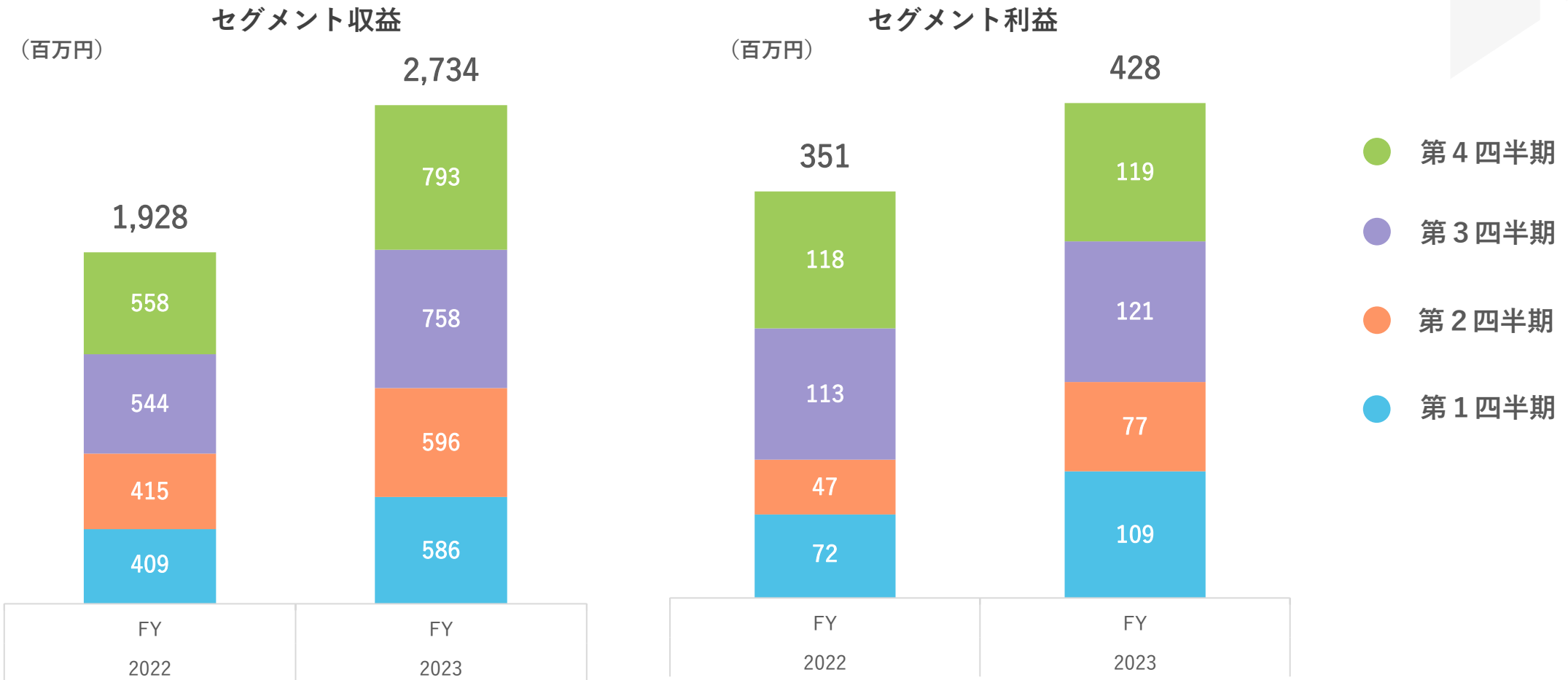


- **その他**  
前年同期比 +70.8%
- **減価償却費**  
前年同期比 +30.4%
- **広告宣伝費**  
前年同期比 +84.0%
- **取引関係費**  
前年同期比 +38.8%
- **器具備品費**  
前年同期比 +39.4%
- **人件費**  
前年同期比 +48.0%

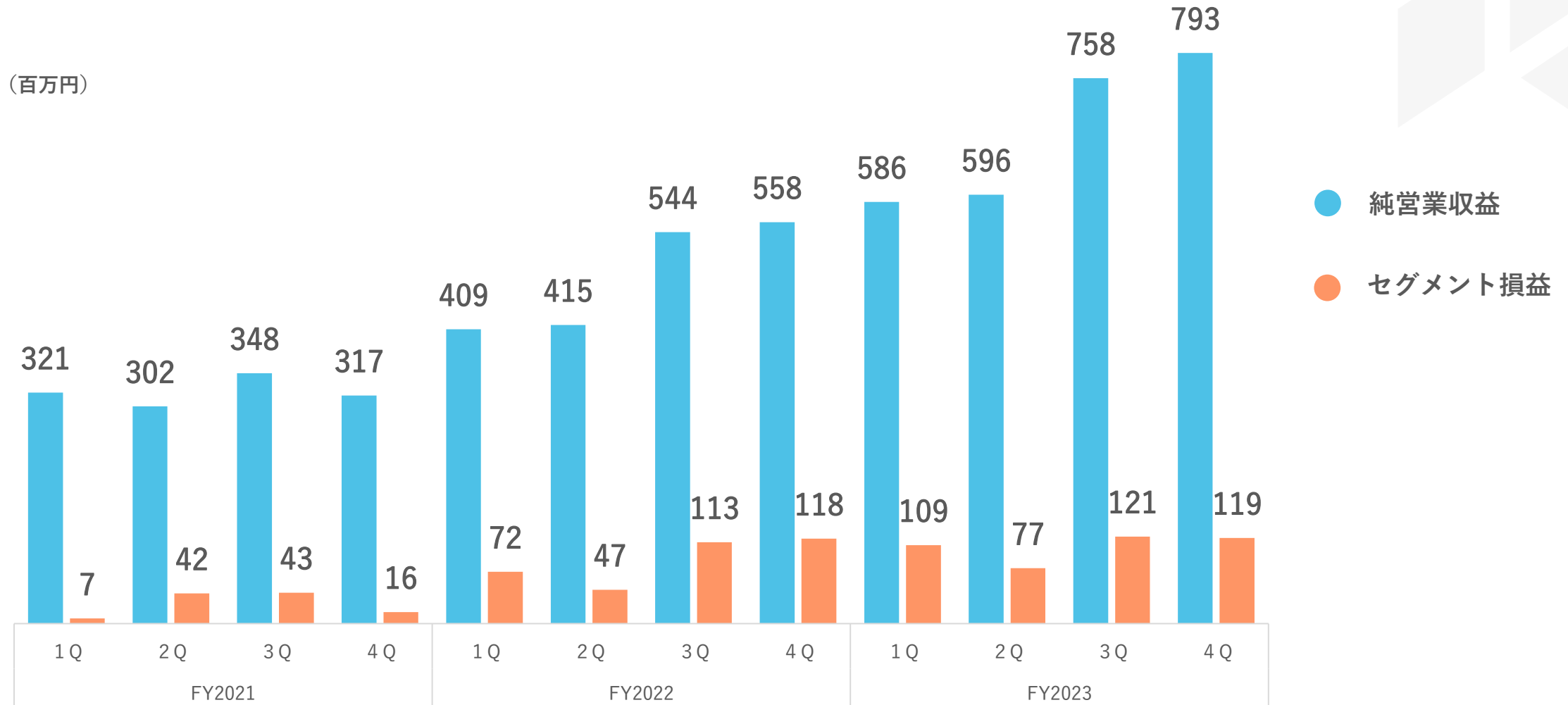


# 純営業収益・営業利益 | 2023年3月期 | 2022.1-2022.12

純営業収益が前年同期比+41.8%、営業利益は前年同期比+22.1%となった。



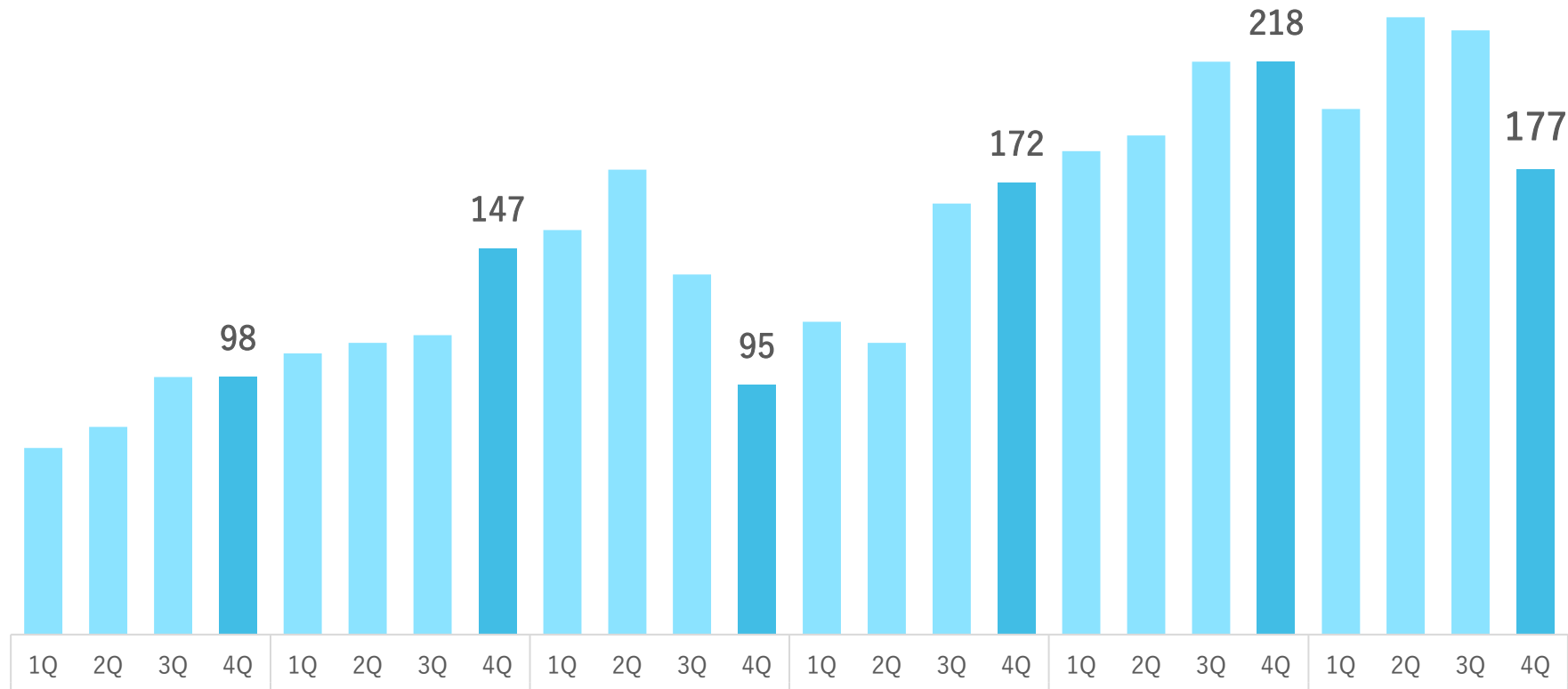
# 純営業収益・営業利益の推移



## 預り証拠金残高推移

預り証拠金残高は前年同期比  $\Delta 18.7\%$  の 1億77百万豪ドルとなった。  
減少の主な要因はインヴァスト証券からの預り証拠金の減少であり、グループ間取引のため連結への影響は軽微。

(百万豪ドル)



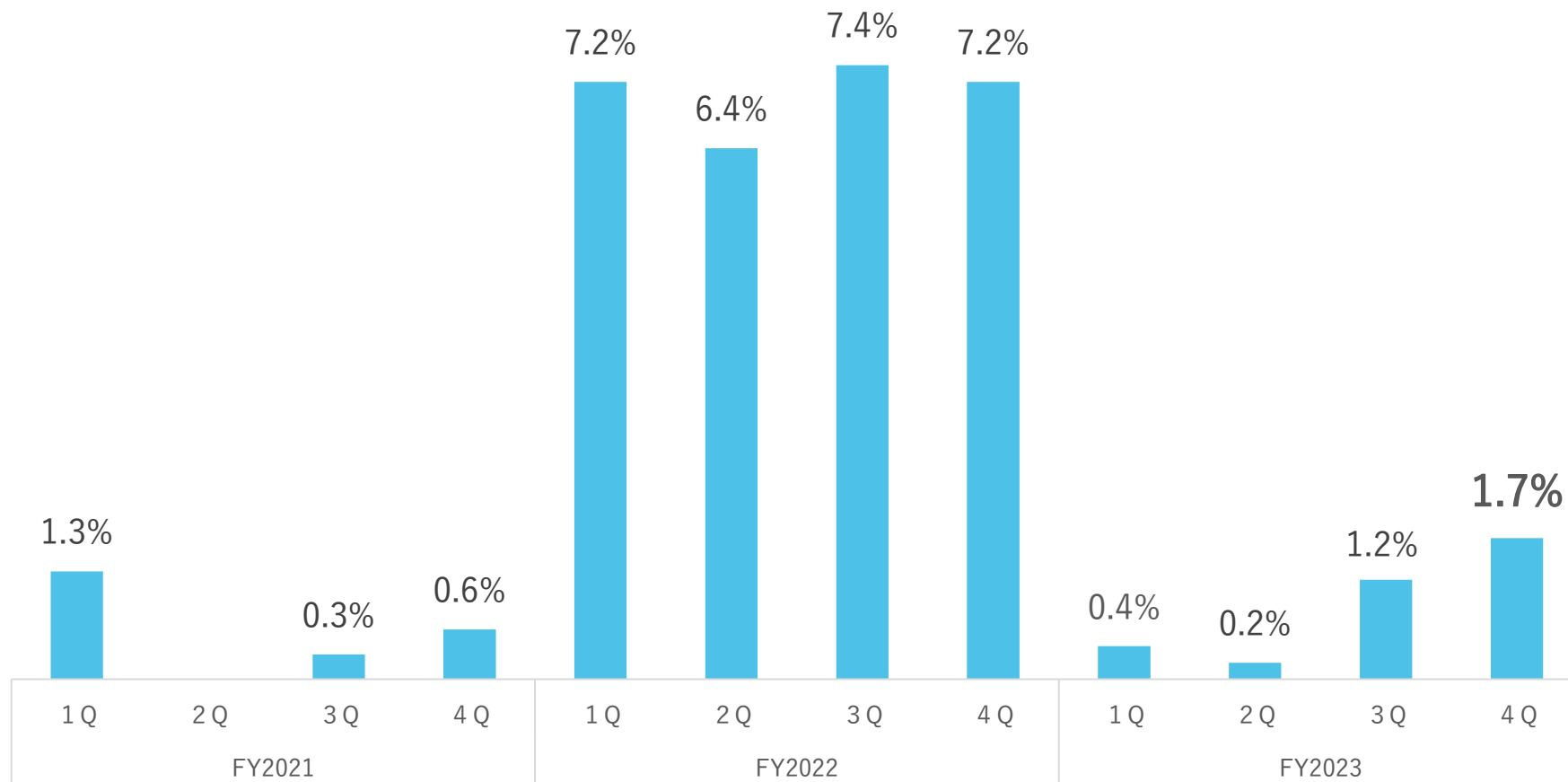
※海外金融事業は決算日が12月末日のため数値は3ヶ月前の値となり、第4四半期は2022年12月31日時点の預り証拠金残高となっています。

ROE  
株主還元



## 株主資本利益率（ROE）

第4四半期の株主資本利益率（ROE）は1.7%



※四半期ROEは四半期純利益の平均値を年換算して算出しております。例) 第3四半期は(第3四半期純利益/3)×4

# 株主還元

## 2023年3月期は 1株あたり 38円 を配当予定

配当利回り（予想） **5.0%※1**

※1 配当利回りは2023年3月31日の終値「757円」で算出

### 配当方針

当社は株主の皆様へ安定的な株主還元の継続を前提としつつ、業績に応じた適切な利益還元を行うことを基本方針としています。

そのため、以下のいずれか高い方を目安とし、中間・期末の年2回の余剰金の配当を行ってまいります。

- ・ 連結配当性向30%
- ・ 連結純資産配当率(DOE) 2%(年率)

注) 今期の配当は予想であり保証するものではありません。

### 配当実績と予想

決算期	2021年 3月期	2022年 3月期	2023年 3月期	
	中間	18.0 ※3	18.0	19.0
	期末	19.0	24.0	19.0 (予想)
	合計	37.0	42.0	38.0 (予想)
当期純利益(百万円)	60	808	199	
配当総額(百万円)	217	246	223	
配当性向	359.6%	30.5%	112.2%	
ROE	0.6%	7.2%	1.7%	
DOE	2.0%	2.2%	1.9%	
配当利回り ※2	5.2%	4.6%	5.0%	

※2：配当利回りは各年度末日の終値で算出

※3：2021年3月期中間はインヴァスト証券株式会社での配当実績





Mission/Vision  
経営戦略

# Mission

存在する目的

## 世界をもっと、良い場所にする

世界中の人々の金融面における課題を解決するソリューションを提供し、人々の幸せを通じて世界を「もっと良い場所」にする。私達の考える「もっと良い場所」とは、一生懸命働いている人が、ちゃんと豊かになれる世の中であり、優秀で、意欲のある学生が、お金を理由に未来の選択肢を諦めなくても良い世の中であり、どんな人でも、幸せになる為の資産形成が出来る世の中です。

私達のミッションは、世界中の人々が、それぞれに想い描く人生設計において、金融面の課題を解決するソリューションを生み出すこと、挑戦する人をサポートし、より多くの人々が人生を豊かにするためのチャンスをつかむ、お手伝いをすることです。

金融という側面から、世界中の人々の幸せを通じて、より良い世界の構築に貢献していきたいと考えております。

# Vision

目指す姿

## 2025年までに全世界で1,000万人の利用者を持つ 金融ソリューションを生み出す

資産運用からスタートし、育児や教育、就職や結婚、資産形成など、世界中の人々の人生における様々な分野で、金融面の課題を解決するソリューションの創造を目指します。

私達は、全世界から集まった優秀な人材が、日々、本物のプロフェッショナルとしての責任を果たしビジョン達成の為に議論し、決断を下し、実行に移す、世界中に顧客を持つグローバル企業になります。

その第一歩として、2025年までに全世界で1,000万人の利用者を持つ金融ソリューションを生み出します。



## STAGE 2 [育成期間] ビジョン達成に向けた経営戦略



### 経営戦略 (STAGE2 : 2020 >>> 2022年)

#### 1 事業の継続的成長

- ▶ 国内金融事業:重点事業(トライオート、マイメイト)への経営資源集中
- ▶ 海外金融事業:プライムブローカレッジ市場におけるトップクラスのグローバルマーケットプレイヤーを目指す
- ▶ R&D、テクノロジー活用を軸とした商品・サービスの高度化

#### 2 グループシナジーの追求

- ▶ 2020年10月、持株会社体制へ移行(株式移転完全親会社:インヴァスト株式会社の設立)
- ▶ 新規事業開始等の戦略実行にあたり、柔軟かつスピード感のある機動的な体制の構築
- ▶ 事業ポートフォリオの分散(投資助言、不動産ファイナンス事業等の比率アップ)
- ▶ グローバルベースでのシナジーの発揮(グループITマネジメント、共通業務の集約化による業務プロセス効率化等)
- ▶ 各子会社成長に加えてM&Aも活用

#### 3 その他

- ▶ 企業ブランド価値向上(IR・PR)
- ▶ グローバル展開に対応しうる優秀な人材の獲得、組織の人材基盤強化

## STAGE 2 [育成期間] 2020年～2022年の振り返り

STAGE 2020>>>2022年

2

事業の継続的成長  
グループシナジーの追求

振り返り期間

STAGE2 : 2020年 (2021年3月期) >>>2022年(2023年3月期)

### 育成期間

#### グループ戦略の育成

- ・2020年10月に持株会社体制へ移行し、柔軟かつ迅速な新規事業開発が可能な体制を構築しました。
- ・新体制の下、新規事業開発に特化した新会社、株式会社アルカドを設立し、自社グループによる有機的な新規事業開発をスタートしました。
- ・M&Aは成約にまで至らなかったものの、継続的に新規案件が持ち込まれ、随時検討する体制を築くことができました。
- ・インヴァストキャピタルマネジメントの事業を廃止するなど、グループ戦略を見直し選択と集中に取り組みました。

#### 国内金融事業の育成

- ・国内金融事業においては、重点事業である「トライオート」と「マイメイト」に経営資源を集中し、R&Dおよびテクノロジーを駆使したAIトレードやチャートメイクなど、競合他社にはない機能追加を継続的に行うことで他社と差別化を図りながら事業を拡大しました。
- ・預り証拠金残高はSTAGE 2 開始時点（2020年4月）で654億円でしたが、STAGE 2 終了時点（2023年3月）には811億円へ約24%増加し、サービスの統廃合によるITコストの効率化と合わせて、主力事業が堅調に成長しました。

#### 海外金融事業の育成

- ・グローバル展開を加速させたIFSが順調に成長し、連結売上比率が約50%にまで増え、純営業収益においてもSTAGE 2 開始時点（2020年3月期）の12億90百万円に対し、STAGE 2 終了時点（2023年3月期）は27億34百万円と2倍以上に成長しました。
- ・グループシナジーの観点では世界最大の為替市場である日本マーケットの参入において、国内金融事業との連携が実現しました。
- ・キプロスやイギリスといった主要金融都市への子会社設立を実行し、地理的拡大を進めました。

# STAGE 3 [収穫期間] ビジョン達成に向けた経営戦略



経営戦略 (STAGE 3 : 2023年 (2024年3月期) >>>2025年 (2026年3月期) )

1 1,000万人ユーザー獲得

- ・新規事業開発に特化した子会社「株式会社アルカド」を通じた新プロダクト、新サービスの導入
- ・M&Aを通じたグローバルユーザー数の拡大
- ・主力事業強化によるユーザー数の拡大

2 事業の継続的成長

- ・国内金融事業：マイメイトの主力事業化、トライオートの改善や拡大の継続、取引システム全面刷新による収益性の向上
- ・海外金融事業：キプロス、イギリスに続く地理的拡大の更なる推進および成長資金の調達
- ・リスク管理強化：世界金融市場の激変にも耐えうるリスク管理体制の整備と強化

## STAGE 3

### グローバル「1,000万人ユーザー」の達成へ向けて

私たちがグローバル1,000万人ユーザー獲得をVisionに掲げた2017年当時、世界最大のリテール外国為替証拠金取引市場規模を誇る日本国全体の総口座数は、626万口座でした。（2017年3月期、矢野経済研究所調べ）

日本で活動する全ての証券会社やFXブローカー、ネット銀行などのFX取引口座数を全て足し合わせても、626万口座しかないにも関わらず、私たちが全世界で1,000万人の利用者を獲得することをVisionに掲げた理由は、「金融サービス業界ではニッチなオンラインデリバティブ市場に留まらず、新しい市場、新しい顧客層のいる、FX以外の事業領域に挑戦する」という思いからです。

そして、FX業界から外の世界に挑戦し、人々のお金の課題を解決するような価値のあるサービスを生み出すことが出来たら、少なくとも1,000万人以上のユーザーがいてもおかしくない、いや、それくらいの規模を目指して、新規事業開発に取り組もう。そんな思いを込めて、1,000万人という目標を掲げました。

この想いを実現する為に、柔軟な新規事業開発を行える体制を構築する目的で、持ち株会社体制に移行し、IT自社開発力を身につける為に、エンジニアやデータサイエンティストなどの採用を強化し、自社プロダクトの開発にも挑戦してきました。

そして、イノベーションのジレンマに陥ることを回避する意味も込めて、これまで取り組んできた新規事業開発体制を分社化し、新規事業開発に特化した子会社、株式会社アルカドを設立致しました。

更に私たちは、2025年までに全世界で1,000万人の利用者を持つ金融ソリューションを作る、という私たちのVision達成に向けた取り組みを3つのステージに分け、それぞれのステージにおける戦略目標を明確にしてきました。そして今、Vision達成の総仕上げを行う、第3ステージが始まります。

FX市場から始まった他市場、他産業への挑戦は、この第3ステージで確固たる成果に結びつけると胸に誓いグループ全役職員一同、頑張っ参ります。

## 会社概要



会社名	インヴァスト株式会社 (英語名 INV Inc.)
住所	東京都中央区東日本橋一丁目5番6号
代表者名	代表取締役社長 川路 猛
設立日	2020年10月1日
資本金	5億円
事業内容	グループ会社の経営管理および新規事業開発
主要な子会社	インヴァスト証券株式会社、Invast Financial Services Pty Ltd、
証券コード	東京証券取引所 スタンダード 7338

## 免責事項

本資料に掲載されている情報は、当社グループの事業の情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。

---

本資料に記載されている情報には、将来の見通しに関する記述が含まれています。将来の見通しに関する記述には、様々なリスクや不確定要因が伴うため、現実の結果が将来の見通しに関する記述に含まれる内容または将来の見通しに関する記述で示唆されている内容と大きく変わる可能性があります。

---

本資料に掲載されている情報の正確性については万全を期しておりますが、その時点で提供可能な情報であり、その完全性、正確性、適用性、有用性等いかなる保証も行っておりません。

---

掲載された情報に基づく判断については、利用者の責任のもとに行うこととし、当社はこれにかかわる一切の責任を負うものではありません。

---